

あ か 牛



第
10
号

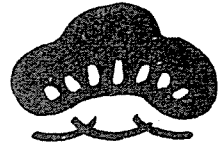
1 9 6 3 . 1

社 法 人 日 本 褐 毛 和 牛 登 録 協 会

The Japanese Brown Cattle Society

覽 一 地 所 在 部 支 縣

所	在 地	支 部 長 名
秋田市中谷地町	秋田県畜産農協連内	小松 武文
仙台市北一番丁	宮城県経済農協連内	佐々木 雄三
福島県田村郡三春町	三春畜産農協組合内	宗 像 千代信
宇都宮市埴田町	栃木県家畜登録協会内	滝 沢 武
水戸市北三ノ丸	茨城県庁畜産課内	稲 葉 芳 蔵
浦和市高砂町	埼玉県農林会館内	加 野 正
新潟市東仲通り	新潟県家畜登録協会内	一 柳 五 郎
長野市南県町	長野県畜産農協連内	松 山 篤
前橋市曲輪町	群馬県経済農協連内	臼 田 一 郎
甲府市橘町	山梨県庁畜産課内	丸 尾 孝
静岡市御幸町	静岡県畜産農協連内	勝 又 直 司
長崎県島原市萩原町	島原畜産農協連内	野 口 源 雄
福岡市天神町	福岡県庁畜産課内	玉 置 文 作
熊本市草葉町	熊本県畜産農協連内	河 津 寅 雄



あ か 牛

No. 10



1963. 1

目次

年頭のことば……………	会 長	佐々木清綱……………	2
ソ連畜産技術を学んだ一カ月……………	九州農試 畜産部長	富永 信……………	4
濠州見て歩き……………	熊 本 県	河津 幸喜……………	10
国立阿蘇牧場の 発足に当たって……………	熊本種牧 阿蘇支場	阿 部 正……………	17
栃木県の褐毛和牛……………	栃 木 県	野口 利治……………	26
「あか牛」に寄せて……………	群 馬 県	小沢 酉次……………	29
会 報……………			30
各県の和牛関係主要行事……………			36
ニュース……………			38

年頭のことば

会 長 佐々木 清 綱

全国のあか牛関係の皆さん、新年おめでとようございます。皆さんには、さだめし良い年をお迎えのことと心からお祝い申し上げます。

顧りみますと、昨年は、わが協会にとつては、いろいろと多端であり、一面においては多彩な年でありました。

皆さんがご承知のように、春には創立一〇周年記念式典を行ないましたし、夏にはその附帯行事として、全国の関係者の方々にお集まり願ひ、褐毛和牛特別研究会を開催して、シンポジウムや現地研究、審査研究会などの各種行事を実施しました。

また、時代の要請にこたえる意味から、褐毛和牛の新しい改良目標をかかげて審査標準を改訂し、十月一日を期して全国一せいに施行しました。

めす牛の発育曲線改訂の仕事が解決しましたことも皆さんがご承知の通りであります。

このように、昨年は、協会の一〇周年にふさわしい意義

のある年であつたと思ひます。

ただ、残念に存じますことは、私が、健康上の理由からこれらの諸行事に出席して、皆さんと親しくお話し合う機会が得られなかつたことであります。私は、近年、すこしばかり健康を害しまして、医者のすすめもあり、静養にとめていますが、お蔭をもちまして昨今は、どうやら元気を回復しつつありまして、第一回農業祭天皇賞選衡の中央審査委員会や第一回家畜改良増殖審議会にも出席する機会を得ましたし、大学の講義にも毎週出むいています。

私の健康のことについて、関係者の皆さんにいろいろとご心配をおかけしましたことを、本誌をかりまして深謝申し上げる次第であります。

さて、「一年の計は元旦にあり」と申しますが、今年は農業界にとつても、わが畜産界にとつても、非常に重要な意義をもつ年であらうと思ひます。

即ち、視野を広く世界にむけますと、戦後の世界で日本とともに最も急速な成長を遂げた共同市場としてのEECの発展や、これに加盟しようとする英国の動き、通商拡大法を打ち出した米国の動きなど、世界は、関税の引き下げ貿易の自由化をいつそう推進する方向へと活発に動いていきます。

わが国としても、外に向つて、公正な競争を前提とする

自由貿易を主張すると同時に、日本みずからも今後いつそ自由化努力を重ねる必要に迫られるでありましょう。

このことは、農業部門についても、必然的問題として生起してくるものと思います。

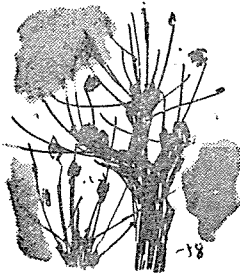
即ち、わが国をとり巻く国際環境は農畜産物の自由化についてなかなかきびしいものがあり、安易に日本の希望通りにことが運ぶとはかぎらないように予想されます。しかも従来の農家や農業団体の多くは、長い間政府への依存体制になれ、このような切実な意識で自由化にとり組む気迫が足りないようにも思います。

また、国内的には、農業基本法に基づく各種の施策が、より積極的に展開されるでありましょうが、農業自体の生産性向上と同時に、加工流通段階における合理化の推進がいつそう急務になるものと考えます。

このように考えてみますと、内外の諸情勢は極めて重大であります。

ここに一九六三年の新春を迎えるに当り、皆さんとともに決意を新たにし、益々健康で、一致協力して、この重大な年を乗り切るべく努力いたしたいと存じます。

一言申し述べて、年頭のごあいさつといたします。



ソ連畜産技術を学んだ一カ月

富 永 信

(農林省九州農業
試験場畜産部長)

日ソ農業技術交流計画に基づいて、第一陣の作物育種班に次いで、第二陣として、畜産試験場の大西技官、畜産局衛生課の蒲池技官、ソ連に渡つてから参加したモスコイ大使館の丸毛書記官と私が畜産班を編成して、八月下旬から約一カ月間、ソ連の畜産技術全般を学んで来た次第です。

私達が、出発を前に打ち合わせのために集まつた時に始めて知つたのですが、丸毛書記官は別にして、私達三人が三人ともに外国語が不得手であるということでした。外国語がしやべれないのに、どうして参加したかというところ、ロシア語のできないことは、日本人全般のことで、私達も、ロシア語に関する限り日本人一般と同一水準にあるという気持ちかなり原因していたようです。ところが、第一陣の方々の帰国報告を聞くと、ソ連側のつけてくれた通訳は英語通訳であり、術語などは英語通訳を介する方が、日本語通訳よりも理解し易く、今回も英語通訳を要求することを

すすめられ、一同先づガツクリしました。そして、政府対政府としては始めてソ連の畜産を学ぶ任務を与えられたことを考える時に、われわれの語学力で果して、その任務達成ができるのかと考え、重い心にとざされた次第です。とに角心眼(たいたした心眼もあるわけではないのですが)に頼るよりはかなしという悲想な決心で、横浜港からソ連船オルジョニキーゼ号に乗り込みました。

幸いなことに、ロシア語の先生の一行がモスコイまで同行されることになり、私達の船室にも、その中のお一人が同室され、モスコイまでどうやらたどり着きました。

モスコイでは、ソ連農業省の外国課長、係長の出迎えを受け、大使館の丸毛書記官もやつて来られたので、ロシア語の先生の一行と別れても無事ホテルに投宿、翌朝の食事の注文までやつて貰つて、先づ／＼モスコイ第一夜を過ごしました。

ホテルの食堂では、各国の訪問団のために食卓ごとにそれぞれ訪問団の属する国旗が置かれており、食卓に迷うこととはないようにしてありました。その食卓で朝食をしていたところ、突然昨夜の外国課長が、婦人の英語通訳者を連れて現われました。通訳者の曰く、「お前達の本日のプランを告げよ。」と。当方はソ連に入つてからは、アナタまかせときめ込んでいたので、何と返事してよいやら、唯々無

言。次いで、通訳者が、モスコイ見物をしたいかとの問いに、これには異存なく、何とかその希望ある旨を答えたがどこを見たいかと問われると、何とも返事のしようのない始末。マゴく／＼している中に、「お前達は英語を解することができるのか？」とやられてしまいました。そこで、仕方なく筆談に移つたのですが、うまい表現もできず、双方ともに困つたという顔で物分れとなりました。それでも、先方は、サーピス精神旺盛で、午後には、再び外国課長が現われて、今度は女ガイドを連れて、とに角市内全体の案内をしてくれた。これも英語のガイドでしたが、先方が説明するだけで、応答の要がなかつたので、先づ／＼無事見物ができました。これからしても、今後、どこへ出かけるにしても英会話を身につけておくことの必要性をつくづく味わされた次第です。

その翌日は、農業省で、次官を囲んで、今後の日程その他の話し合いがなされましたが、この時は、日本大使館からも通訳が出てくれて事なくすみました。そして、ソ連側も、当方の英会話力にあきらめて、日本語の通訳者を探し出してくれました。この通訳者こそ、私達の任務達成上最も大きな働らきをしてくれた人であつたわけです。

この通訳者は、東洋文化研究所の研究員であり、現在室町文学を研究中で、日本語の辞書の編集もやつていて、会

話こそタドタドしいものですが、言葉そのものは全く正確で、商売の通訳者と異なり、私達の通訳者としては又と得られない適任者でありました。この通訳者は、又、われわれに通訳をするという任務に責任感を持つて当られ、その努力には感激のほかありませんでした。このようなよき通訳者を得たのは、私達が英会話のできなかつたことが原因で、世の中には、何が幸いするかわからないということをつく／＼感じさせられました。

それから、見物や、研究所、農場の訪問に移つたわけですが、モスコイ滞在約一週間でハリコフ、ポルタワ、アスカニアノバ等ウクライナの旅を約二週間し、次いで、レニングラードに飛び、再びモスコイに帰り製肉工場、遺伝研究所を訪問して、全スケジュールを終つて、往路の逆をたどつて帰国しました。

ソ連滞在中を通じて、全般的に感じたことは、消費面において、旅行者にとつては、多少不便の点はあるが、国全体としては、生活水準は日本よりも高く、殊に公共施設の充実しているのには感心しました。従つて、政治の高い場所にある人は別とし、国民一般は現状に満足して、祖国愛に燃え、忠良なる国民という言葉がピッタリとあうような気がしました。

訪問先の人々、又は乗物に同乗した一般の人々も、アメ

リカとの競争ということには強い関心を持っていますが、私達には、お客さんを温い心で迎えるという感じがにじみ出ていました。

私達は、このように好感を以て、帰国しましたが、第一陣の方々の印象は、私達とかなり異なっていたようで、あまり好印象は得られなかつたようです。従つて、僅か一カ月位の滞在では、その時々によつて、全く反対の印象を受けることもあることを示しており、私の報告も、私の受け一面の印象に過ぎないことを御了解願う次第です。

ソ連の畜産技術全般としての感想は、宏大なる土地における畜産技術という一語につきます。そして、この広大な土地を基盤にして、ソホーズ、コルホーズという集団農場による経営が、國家の計画経済の下で行なわれている点がソ連の畜産技術を方向づけているわけです。

ソホーズは国营の集団農場ですが、コルホーズは、一般農家が集団化した集団農場で、最近はこのコルホーズ同志が更に集団化して、一つのコルホーズの平均耕地面積が三千町歩に近い大きな規模になっています。従つて、コルホーズの経営も組織化され、コルホーズの議長には、単に政治意識が強いだけでは動まらず、経営能力を持つた人が選ばれるようになっており、この議長の下に、作物専門家、家畜専門家、獣医師、時には会計専門家といったような、

専門技術者が配置され、その下に、耕種作業隊、乳牛作業隊、トラック作業隊といったような、作業隊が編成されて、全体が組織的に仕事をするようになっていきます。

これらコルホーズには、ソ連全体の計画生産の線に沿つた生産量が、地域計画を経て割り当てられ、コルホーズはこの割り当てられた生産を行なうように計画運営するわけです。そして、生産されたものは、又政府の調達計画によつて、政府によつて買い上げられます。コルホーズ員は、コルホーズの仕事をするともに、自分の屋敷付属地を自由に利用することを許され、その生産物は、コルホーズ市場で自由に販売することも許されています。現在は、この自由市場の価額の方が、政府買い上げよりも高くなつていますが、政府買い上げ価額も、運営が適当であれば、生産費を上廻りますので、畜産物、殊に大家畜による畜産物の生産は、コルホーズに重点が移り、コルホーズ員の個人で行なうものは蔬菜とか家禽の飼養が主になつて来ているようです。

このように、ソ連の畜産は、集団農場で行なわれ、集団農場には専門家が配置されていますので、研究所の研究成果は、専門家を通じて、直ちに実地に移されます。

現在、ソ連の畜産物生産額は、農産物総生産額の五八%を占めています。畜産物の生産は今後まだ増産し、

米国の消費水準以上にすることを目標に、畜産物増産二十カ年計画を樹てています。この計画は広場とか、待合室とか、人の集るところに図示されて一般の認識を高めています。

この計画を達成するためには、何といつても、飼料の増産が第一と考えられ、そのためには単位面積から、如何に多くの飼料価値を生産するかが問題とされ、現在は、玉蜀黍、てん菜、まめ類の栽培がすすめられています。これも普及組織を通して、国の至るところにも普及されているのに驚きました。ソ連では、家畜飼養のための標準には、飼料単位による標準が採用されている關係上、飼料単位を多く得るといふ点では、玉蜀黍、てん菜等は適した作物といえますが、蛋白質その他には不足しますので、現在各研究所では、蛋白質その他をどうして補給するかが、一致した研究課題になっています。

つきには、家畜の能力向上が考えられ、そのためには、飼養管理の改善ということより、先づ家畜自体の改良が考えられています。この家畜の改良には、研究所の育種研究とともに、人工授精の研究と、人工授精網の完備が、大いに役立つています。

現在、牛では、一応品種として数えられるものでも三十種以上に達しておりますが、その大部分は、乳用目的のも

ので、乳用種として改良を計られている牛が、全頭数の九五%に達しています。従つて、牛肉に関する限り、ソ連においては、日本のように美味のものは味わえませんでした。この牛の改良には、優良品種の血液の導入が行なわれており、雑種改良がかなり行なわれていました。この場合には先づ改良センターで、一代雑種を作り、その一代雑種の雄の精液を人工授精で授精し、四分の一血液のものを作り、この四分の一同志の交配で固定したものにしようとして行こうとしています。この四分の一血液の導入ということは、在来種の長所を残し、しかも、優良種の美点を加えるのに効果的だということのようです。そして、実際にも、かなりの効果をあげているようです。勿論、四分の一同志の交配の結果は、分離の法則により、望ましくないものも出て参りますので、ソ連で成果を挙げているからといつて、わが国に今直ちに持ち込める技術とはいえませんが、それは、ソ連におきましては、コルホーズ等の牛の飼養頭数が、何百頭、何千頭という数になつており、その中には年々一定割合で淘汰がなされており、全体として能力の向上が行なわれるなら、一部に望ましくないものが出て、差し引き効果が得られるわけです。日本では少数飼育のため、たま／＼望ましくないものを飼わねばならぬ立場になれば、その影響は非常に大きくなり、従つて雑種改良が行なわれていない

わけです。日本でも、比較的数として多く飼われている鶏では、雑種利用が行なわれていることは、この間の事情がある程度説明していると思われれます。勿論ソ連におきましてもすべてが、雑種による育種ではなく、系統育種も併行して行なわれています。

このように雑種によつても、系統繁殖によつても、その効果が着々あがつているのは、研究所、人工授精所、集団農場というものの間に、充分な連絡、統制がとられている結果であり、育種技術そのものには特に学ぶべき新しいものは見出しませんでした。

ところで、ソ連におきましての畜産物生産価額と、政府買い上げ価額の関係を見ますと、政府においても、何回かの経済調査の結果、とに角、適正な運営がなされている限り、集団農場で生産される畜産物の買い上げ価額は生産費を上廻るに至つてゐるようです。しかし、生産費に見合う価額といつても、消費者の価額を無視するわけには行きません。二―三の集団農場で聞いた範囲では、牛肉、鶏肉の生産費は、豚肉の生産費の二倍近くになつてゐるようです。しかし、買い上げ価額は消費者との関係から二倍にすることは不可能であり、集団農場としては、卵、乳で利を得ることにより、余り利があがらなくても、政府の計画に協力して鶏肉、牛肉の生産を行なつてゐるとのことでした。こ

のようなことは、全体主義の経済下でいえることで、日本においては、想像することもできない事かと思ひます。

日本では、和牛を将来肉牛として考えようとしています。又、いつまでも役肉兼用をつづけることも困難かと思ひます。その場合、肉牛として、果して経済的に成り立つものかということに、ソ連の現状を見て考えさせられました。

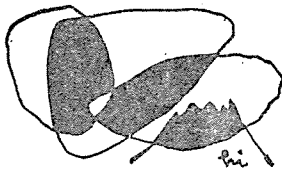
確かに肉畜としての牛を考えますと、産子数が少ないということから、子牛そのものの生産費が高くつきます。従つて、肉畜として豚と競争するには、少なくとも、豚肉よりも高く買つて貰わなければなりません。それかといつて、余り高くは消費がのびません。そして、飼料関係から見て、将来の日本の肉需要を豚にのみかぶせることはできません。草資源を活用できる肉牛飼養というものを捨てるわけにもいきません。それどころか、現在の見通しでは、増産が要望されています。これらの関係を如何に調和して、肉牛飼育の経済性を確保して行くか、これは、私達研究者に課せられた大きな使命であるとともに、和牛関係者も充分検討しなければならぬ課題かと思ひます。

この肉牛に關しての問題は、何もソ連に行つたから思ひついたことではなく、ソ連に行つて見ても、やはり問題として再認識されたものです。

あか牛誌上にのせていたゞく文としては、適當でなかつ

たかと思いましたが、想いをまとめる時間もなく、手の動くにまかせて書きつづつた次第です。

なお、正式報告は、いづれ農林省で印刷され、関係機関には配付されることと思しますので、技術的な詳細は、後日の正式報告で御承知願います。



濠洲見て歩き

河津幸喜

(熊本県畜産課)

空の旅

ジェット機で羽田を午後五時に発つと、途中香港、マニラ、ポルトドーウィン、と寄港しても、翌日午前中に濠洲シドニーに着く。地球も全く狭く感ずるようになったものである。私が東京を出発したのは昨年四月二十七日であった。定期のカンタス航空、一二〇人乗りは超デラックスそのものであった。手続きのとき万一の事故保険金三〇〇万円を受領人を訊かれたことを思い起こし心に安着を祈りつつタラップを上がる。中廊下六人併列の座席は列車の一等級で、ベルトを締めると気分が落ち着く。定刻、ごう音とともに離陸するや一瞬にして市街地や海上に浮かぶ船が真横に異様な光景で映じてくる。一時間余で桜島の噴煙を眼下に見ると、ひろい海上を高度で飛び、不快指数0の快適

な空の旅である。海上の波浪のうねりが小さい縞のように見え、雲の影がポツポツと暗く映じスピード感がない。ときどき、機体が大きく上下左右に震動することがあるが、これは霧の中へ突入した時である。白い霧から抜けると再び絵のような風光が映じてくる。殊に夕日は美しい!!。洋上に沈む太陽は空を雲をそして海を真紅に染めて美しさ限りない素晴らしい眺めである。

夜九時、ネオン輝く不夜城の街を上から眺めるうちに香港飛行場に着陸した。機が下降するとき、耳が急に痛くなつた。ここで四十五分休けい後再び出発する予定のところ二時間ほど待たされてから案内があり街のホテルに泊ることになつた。というのは次の寄港地マニラの飛行場で事故が起きたとのことで、翌日聞くとところによると着陸の際滑走路をメチャ／＼にこわし当分使用不能となつたそうである。九時三十七分香港を出発、マニラを通過して一路ポードドーウィンに向つた。フライッピンの島々はまるで地図の上を見ているように去来し、島沿岸の海面は幾つかの原色味を帯びた美しさであり七色の虹を下に見てゆく。

約六時間余りにて、大陸の濠洲ポードドーウィンに到着、褐色に見える土質の飛行場周辺には、野生の草木が栄養不良の如く大木もなく生い繁つている。着陸と同時に衛生官とも見られる者がダヤ／＼と乗り込み噴霧器で機内を形式

的に消毒する。ここは赤道に近いところで秋というのにア
スファルトが溶けそうである。休憩室のプロペラ扇風機も
サツパリ効果がない。綺麗な造花があらゆるこちらに生花の
如く飾られ気分を涼しくしてくれる。冷たいジュースに喉
を潤しているうちに飛行機の整備も了り再び機上となる。
今度は目的地シドニーに直行である。窓際の席にいる私は
横断する大陸を眼下にしばし見ることができた。海に近い
と思われるところは樹木も多いが大部分は不毛の砂漠で灰
色に見え、道のように見えるのは水の流れていない川であ
ろうか？帯状に幾条にも大小無数に交錯している。暮れて
から幾つかの街の灯を、又遠くに燈台の灯を見るなどで単
調なものであつたが、シドニーが近づいたことをアナウン
スされると乗客はザワメキ立つ。二十時無事に着陸してス
チュワードス嬢が安着を祝福する言葉を述べると一斉に拍
手して別れを告げながら降りて行く。出発以来、二十六時
間を要したわけである。

パスポートや予防注射済証、またトランクの中まで掻き
廻す綿密な検査を受けて入国手続きを終えた。この間約一
時間を要する悠長さであり、ノンビリしたこの国の国民性
を感じたのが第一印象であつた。

待合室には農林省畜産局の堀技官と野沢組の坂口さんが
迎えに来ていただいた。堀さんは、シドニー大学の留學生

として派濼されており、坂口さんは貿易の駐在社員であり
この二人の方が私達の滞在中のすべての面倒を見ていただ
き英会話のできない私達の不自由を援けて下さつたのであ
る。

タクシーでホテル「メトロポール」に旅装を解きここを
根拠とした。

シドニーの美しい港と街

一夜を明かした私達は翌二十九日の日曜日に坂口さんの
案内で一日見物することができた。シドニーはオーストラ
リア最大の都市で建物は英国式の古風のものが多いが、地
震が無いせいか赤レンガで造られたビルも見かけられた。
まだそここに高層建築の工事が進められているが、一口
に云つて静かな落ち着いた街と表現することができよう。街
の道路は広く高低起伏の多いのも港町の特徴である。住所
番地は片側が奇数、反対側が偶数番地で解り易い。二階バ
スが縦横に走っている。港に面してポタニツクガーデンと
呼ばれる美しく広い植物園がある。至るところ花だんが
整備され数多くの花が咲いて綺麗であり旅情を慰めてくれ
る。見事に手入れされた緑の芝生はジュウタンのように其
処此処に寝転ぶ姿も見られ家族連れも多く都会人憩いの場
所である。ポートジャクソン湾を横切つて市と北郊を結ぶ

ハーバーブリッヂは世界最大の単孤橋としてこの国の人の達の自慢とするところといわれており、巨大な橋はカメラの視野には、容易には入らない。橋下を二万トンの船が悠々と通過するそうであるからオドロキに値する。

波止場からフリーポートで十五分間の島にタロンガ動物園がある。自然の地形を巧みに利用して造られたもので規模も大きい。又この中には水族館があり世界の珍魚が数多く集められている。深い池がありたくさん銀貨が投げ込まれてあり、この池に祈りを捧げて幸福を願う人も多いそうである。この動物園から眺める港の風景は世界最良の自然港の名にふさわしく風光明媚の一語に尽きる。

この国は週四〇時間制で休みも多く、静かな家庭生活を樂しみ、日曜祭日には店を閉ざして動植物園や郊外へのドライブなどと一家団らんを樂しむ。又スポーツもテニスやフットボールが盛んで街の所々にあるグラウンドでは試合が行なわれ観覧者も多く歓声が挙つてゐる。競馬も盛んだそうであるが、パチンコ店は全然ない。

南緯三十余度にあるシドニーの季節は、日本と反対で五月は秋であるのに、昼はこと更に暑く、雷鳴を聞く夕立にあい驚いたが、夕方になると急に冷えこむ。お正月が真夏で感じがでないそうである。空気が澄みホコリがないので靴が汚れず持参した靴クリームは使いなしである。服装は

皆立派で階級差が全く見られず、さすがに世界一の産毛国であることが痛感される。低学年の子供がセピロ服にカン帽をかぶり小型のトランク(こちらのカパン代り)を提げて通学しているのは愛きようもありコツケイにも見えた

領事公邸における天皇誕生日の盛宴

二十九日夜は堀さんの案内で領事公邸における天皇陛下の御誕生祭に参列の機会を得た。高台の公邸正門には真新しい日の丸の国旗が二本立てられて、邦人(外交官、商社、訪濠中の日本人)及び家族が大ぜい(一〇〇人内外と思つた)集まり、既に祝宴が開かれていた。

陛下の御誕生と御健康を祝福して皆歡びに溢れている。初めて紹介された人とも十年の知己の如く談笑をはじめ。殊に女性はすべて和服を着用し十七、八才かと思われる娘にも七五三の時のような蝶帯をさせ、主婦の方々の料理の卵焼、豆腐、おにぎり、フライ、はてはオデンまでもあり、日本酒を汲み交し時の経つのも忘れて遠く故國を偲んでおる状態に接して、異國において何か目頭が熱くなる思いがした。

公衆、交通の道徳が徹底している

この国の公衆、交通の道徳は実に徹底していて、公園や

道路には塵一つ見当らず所々に建物を全く別にする男女の便所が設備され清潔な感じを受ける。くわえ煙草で歩行者もいないし、道路の横断はシグナルの無いところでは歩行者優先である。車がスピードで走つてくるので停止しているとき、運転手はピタリと車を停めてゼスチューアーで横断を促すというように、また道路に果物の皮などをすてても罰金をとられるほどだそうである。二年後に開かれる東京オリンピックに備えて日本でも早く国内の美化運動と交通道徳を徹底させねば世界に恥をかいてしまうと思つた。

またオーストラリア人の対日感情は非常に良く、感心したのは、人を信用し、たいへん親切である。例えばバスに乗つて切符を買うが、下車の際には取札をしないし不正乗車の警戒もしていない。行先を尋ねても丁寧に教えてくれ、たいいていのところならわざわざ案内してくれる。

賑かなジョージストリート

シドニーの繁華街はジョージストリートで、この通りは非常に人と車の往来が多く二階バスが縦横に走つてゐる。あらゆる店が軒を連ねてゐる。果物店のウキンズが美しく、オレンジが多く、バナナは短いが非常に安値である。所々にオレンジジュースの店があつて実に美味しい。デパートの精肉販売のウキンズにはヘアフォードの宣伝ポスターが

掲げてあるのを見かけた。肉をみたが脂肪交雜の状態も良い。価格は一ポンドが邦貨に換算して二一八円にあたるので非常に安いものである。

ジャパンスキヤキ

ここにはスキ焼屋がある。濠洲軍人と日本駐留時に結婚渡濠した日本女性でみづから戦争花嫁と称し内職に四一五人で共同経営しているもので、数軒あると聞いた。堀さんと坂口さんにジャパンスキヤキという店に案内してもらつて試食する機会を得た。ここで食べた肉はアンガスかヘヤフォードのいづれの肉かは解らなかつたが、非常に軟らかで食べ良い感触が印象に残つてゐる。ただ見た眼では非常にサシも入つてゐるように見えるが、舌ざわりに脂肪分が不足しており肉味が単調に思えた。日本とは肥育様式と利用目的が違つたためだろうと話し合つた。しかしこの店にはオーストラリア人も随分来ていて不器用な手つきで肉をつつてゐた。日本酒もあり米飯も食べた。米はずいぶん産するそうである。経営者の戦争花嫁からは日本のことをいろいろとたずねられ、一度帰りたいが費用がかかるからと半ば諦めていた。たま／＼肥後ずいきの話しがでたので講釈をしたところみんな喜んでゐた。

アングス協会を訪問

ニューサウスウェルズ州の農林省を訪ねたが受付に女性が二人いて印刷物をくれた。

アングス登録協会も堀さんが案内してくれた。事務局長のサリーナ氏が心良く迎えてくれ予定があつたらしいが熱心に登録のことを説明してくれた。別れるとき大切に保管されたアルバムを出してカラーで撮影した写真を見せてくれた。濠洲にもレッドアングスという牛が九州位の島に飼われ、この一群は大切に保管されておるといふことであつた。写真では、あか牛よりやや濃色に見えたが、タイプは全く肉用型であつたので、一度実物を見たいと思つたが残念にもその機会はなかつた。

ヘアフォード牧場見学

一日ニュージランドローン社の案内を受けてミッタゴンと呼ばれる村のグリーンパス牧場を見学した。シドニーから郊外へ出るとすぐに牧場があり乳牛、豚、馬、めん羊、の遊群が目につく。肉牛のアングスやヘアフォードの牧場はかなり奥地にある。しかし相当の奥地でも舗装されておりハイヤーは時速一〇〇キロ内外のスピードで走るので快適でもあり距離感がない。この牧場はこの国でも小規模の牧

場で三〇〇頭の雌と雄三〇〇頭のヘアフォード牧場である。

それぞれ優秀なものが飼われていて三人で担当し全く省力的にやつている。雄は五頭を種用に供用し、そのほかは育成牛であつた。種雄のうちの二頭はとくに私の印象に残る見事な体型をしていた。一六カ月のオリンピック号は若齢であるためか肋にやや難があつたとはいへ体積に富み背中腰巾尻巾が特に広く、実に悠々たる歩き振りであつた。人にも慣れていたので皮膚をさわつて見たが少し硬い感じであつた。価格を尋ねたところ邦貨にして六〇〇万円位と答えたので驚いた。あと一頭は三五カ月のもので体重一〇〇〇kgと言ひ実に堂々たる重量感を感じるものであつた。われわれの通念で体高をたずねてみたが測らないから解らないと体高のことは全く問題にしていないうであつた。カウボーイのリパーセン君の案内で雌群の放牧場を見たが近づけば逃げてしまい容易に観察することができなかつたが、一般に大型で、価格は一五万円以上であると説明した。雌雌とも濃茶色の毛色に頭と下腹部四肢が白く股の厚さや巾は特筆すべきものであつた。放牧場は到るところ頑丈に有刺鉄線で柵がなされ逃げたら最後といわんばかりの用心さであつた。土質は良いとは思えなかつたがケンタッキー、ラジノクローバー類が多く、五月はあちらでは秋であつたが未だ青々としていた。又往復の途中には牧場の各所では牧草

播種のためのハローイングが行なわれていた。羊群はどこでも見られ、さすがに世界一の産毛の国だと思つた。羊毛が総輸出額の半を占めるというからその比重の大きさがわかる。

オートメーションの搾乳場ロートラクター

世界に二つしかないというロートラクターを見学することもできた。オートメーションの搾乳場であるが、放牧場から集まつてきた乳牛はメリーゴーランド式のスタンション設備の中につきつぎと入ると自動的に搾乳され元の位置に戻るとスタンションが外れ、牛は運動場へ出て行く仕掛けになつており、人はミルクの付けはづしをするだけで、一廻転六〇頭ときいた。約一〇〇〇頭の乳牛（品種が雑多で個体もあまり優良とは思わなかつた）では経営的には採算が合わないそうである。

シドニーの大博覧会について

約一週間の滞在で休日の多い濠洲では充分な見学や調査はできなかつたが、堀さんからあと一〇日間早く到着していたらすばらしい機会に恵まれたのにと云われ、千載一遇の機を逸し惜しい気がした。それはシドニーの大博覧会のことである。しかも「この大博覧会における大行列は、世

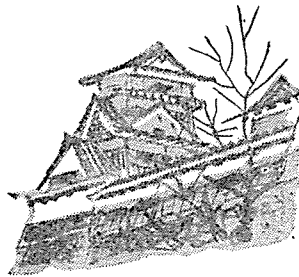
界中の如何なる国においてよりも活気と色彩の点で最も卓絶した万花鏡」としてシドニーを紹介する本にも載つており、要訳すれば次のようである。イースター（復活祭）といわれシドニーの謝肉祭の時である。その時はオーストラリアの全土から遊覧客の集まる憧れの大博覧会が開催され十昼夜の期間中一〇〇万人以上の人々が七〇エーカー（七ヘクタール）の敷地の門をくぐる。初期には農事又は牧畜博覧会であつたのが近年目的が拡げられ、継続的に血の湧くようなスポーツや演芸のプログラムを備え、中央闘技場の大行列はその博覧会の中の最も注目し値するもので、緑の草の上にあらゆる牛の品種の代表が見られ、内側の円には力強い選抜馬から小さなシエトランドの子馬に至るまで加わり、それに調馬師、馬術家、騎馬隊の巡查、牧夫の競技者、それに鞍上の勇敢な姿やリボンを見せびらかす意図で馬上の年少者などを多数その間にまぜてあるのが見られ世界中からの訪問者はこれを本場に地上最大のショー（博覧会）であると描写している。

オーストラリアは畜産王国

濠洲は全く畜産王国の感がある。「動物に接する者は心優し」といわれ、畜産の国オーストラリア人はノンビリした非常に親切な国民である。

おわりに

馳け足の状態で、濠洲の一角を見聞し、語学落第の私が見聞した収穫をこの紙面でかす多く報告することができなかつたことをお詫びしたい。とも角、つつがなく用務を果たし五月末帰国することができ、感じたことは、楊牛も昨年一〇月一日を期して従来の役肉用から肉用型に審査標準も大改革が行なわれ、改良目標に向つて邁進することになつたが、われわれの既成観念である体高にのみ多くをとらわれることなく、飼料効率と体重（育成牛ならば増体量）を重視する感覚で行かねばならないこと。この点について将来標準の中にも体重を体高の前のトップに持つてきたらどうだろうか？又横からのみみる均称に幻惑されず後方から先にみて、実用牛の選定・造成に資したらどうであろうか？いささか私見を加えて濠洲見て歩きの拙文を終る。



国立阿蘇牧場の発足に當つて

阿 部 正

(農林省熊本種畜牧場
阿蘇支場技官)

本誌第八号で「熊本種畜牧場阿蘇支場概要」として、建設上の当場について、設置された主旨、事業内容、内部組織、建設の進捗状況などについて、概略紹介し、関係各方面の御指導と御援助をお願いしたが、幸いに当初予定されていた諸施設もこの程概ね完成し、昨年十二月末に種牛の導入を終り、牧場としての態制もようやく整い、本年十月十日開場記念式典を盛大に挙行し、ここに名実ともに熊本種畜牧場阿蘇支場として、第一歩を踏み出すこととなつたことは、関係各位の多大の御支援の賜であり誌上をお借りして厚く御礼申上げる。

ここに建設の経過を顧みつつ、当場の大略について紹介することとする。

一、建設経過

当場は、昭和三五年八月六日農林省告示第七一七号によ

り、九州地方における末利用草地の草生を改良し、低生産費の食肉を増産し、食肉需要増に即応した有効適切な経済飼養方式を樹立するため、草地改良を實施するとともに、褐毛和種の放牧適性と、早熟肥産性を高度に利用した肉牛の放牧飼育に関する普及展示、ならびに経済的飼養技術の指導機関として設置が決定した。

これに伴い建設二カ年計画がたてられ、熊本種畜牧場田内政晴場長が支場長事務取扱いのもとに、昭和三十五年八月下旬建設要員五名(庶務二名、業務三名)が着任、仮事務所を長陽村役場立野出張所の一室に設けて本格的建設業務に入つた。以来昭和三十六年五月末、現在地に、建設第一年度の庁舎、農具庫等事業用建物の一部、宿舎の一部が建築され、移転を完了した。

引続き、建設第二年度の牛舎及び附属施設の建築が行なわれる一方、昭和三十六年九月菅鉄平技官が初代支場長として着任、同年末には基礎畜五二頭が繫養され、昭和三十七年八月菅支場長が十勝種畜牧場長に転出されるまでに、場員も逐次補充されて殆んど定員に達し、当初建設計画も概ね完了、現在の姿ができた。施設の建設に要した経費は、昭和三十五年度二、〇〇〇万円、昭和三十六年度三、〇〇〇万円計五、〇〇〇万円であつた。

この間、昭和三十七年五月十三日には皇太子殿下御夫妻

行啓の榮に浴し、つぶさに当場の現況を御覽いただいた。
 又当場建設にあたり、用地接収、庁舎道路建設、敷地造成、揚水施設等について、熊本県当局を初め、地元阿蘇郡長陽村、阿蘇町、その他多数の關係各位の絶大な御支援をいただいたことを特記する。

(1) 位置

熊本県阿蘇郡長陽村大字河陽大字葛原五五四二番地
 電話（赤水局）四〇番

(国鉄豊肥線赤水駅から産交バス湯の谷線「国立牧場前」下車)

(2) 用地および建物

イ、用地 総面積一〇町七反歩
 ロ、建物 二四棟 七五六建坪

名称	棟数	建坪	建設年次	備考
庁舎	一	五一	昭和三十五年	鉄筋コンクリート平屋建
倉庫及車庫	一	一七	〃	木造平屋建
収納舎	一	四九	〃	〃
第一農具舎	一	二九	〃	〃
燃料庫	一	四	〃	ブロック建
第二農具舎	一	一四	昭和三十六年	木造平屋建

衛生室	飼料庫	雄牛舎	雌牛舎	牛舎	サイロ	堆肥舎	宿舎	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一
二四	四九	八五	二八五	七	一四	四九	二一八〇	二四
昭和三十六年	〃	〃	〃	〃	〃	〃	昭和十五年五棟 昭和十六年六棟	
木造平屋建	〃	〃	〃	〃	トレンチサイロ	木造平屋建	〃	

(3) 内部組織及び現在人員

次の二課五係をおき、それぞれ事務を分掌している。

区分	長		庶務課		業務課	
	支課長	庶務係	會計係	課長	種牛管理係	調査係
技術職員	一			一	一	二
事務職員		一	一			
勞務職員				一	五	四
計	一	一	一	六	一	六
		六		一四		

二、事業の概要

当場は肉牛の経済飼育施設として褐毛和牛を繋養し、繁殖、育成、配付等を行なうほか、牧野利用の効率化を図るため草地を改良し、その利用による和牛の生産および肥育の飼養形態を確立するとともに、その技術の指導と展示を行なうことを目的とし、これを達成するために、具体的には次の業務を行なう。

(1) 和牛の生産と肥育を、次に示す飼養形態で行ない、これについての最も有利な飼養形態の確立

(イ) 牧草の刈取方式による飼養

(ロ) 人工草地の輪換放牧による飼養

(ハ) 改良牧野の輪換放牧による飼養

(ニ) 自然草地の輪換放牧による飼養

(2) 調査事項

(イ) 家畜の生産費

(ロ) 家畜の省力管理

(ハ) 草種導入基準

(ニ) 草種維持管理方式

(ホ) 草地造成費

(ヘ) 草地維持管理費

(ト) 草地利用度（放牧面積、放牧頭数、採食量、生産量）

(3) 対外的事業

(イ) 草地利用による繁殖牛、育成牛の飼養形態の確立と展示

(ロ) 草地利用による肥育形態の確立と展示

(ハ) パイロット農家群を中核とした肉牛増殖地域の拡大

(ニ) 草地改良の促進と技術指導

(ホ) 生産畜のパイロット農家群への貸付または譲渡

三、現況

(1) 飼養管理

繋養している家畜は褐毛和種雄二頭、雌五〇頭で昭和三十六年十一月中に別表に示すように熊本県下において購買を実施し、施設の完成にともない、同年十二月二十日、二十一日の両日から繋養を開始した。入場時の月令は、十二月末満の子牛四一頭、二十四ヶ月末満の育成牛十一頭で

褐毛和種基礎畜の購買地別頭数表

計	雌	雄	性	
			区分	
一一	一〇	一	球磨畜協	
四	四		芦北畜協	
八	八		南阿蘇畜協	
九	九		菊池畜協	
五	五		鹿本畜協	
五	五		矢部畜協	
一〇	九	一	阿蘇中畜協	
五二	五〇	二	計	

これらを基礎畜として放牧を主体とした和牛の経済的飼養形態の確立と、粗飼料の利用性が高く、早熟早肥、放牧適性があり、かつ肉質の良好な和牛の造成等当場の使命を達成するための、第一歩を踏み出し、現在に至っている。

当場の褐毛和牛の繋養目的である飼育方式確立のためには、それぞれ管理方式が異なり、かつ体型的にも特色をもつ地域から基礎牛を購入することが必要と考え、できるだけ広範囲な地域から、しかも最少五頭は同一地区から選定したため、当場の飼料および環境に早く慣れるように注意を払い、しかも月令が多岐に亘っているため、できるだけ月令の近い牛を追込房に収容し、平均して飼料を摂取できるように心掛けた。

舎飼期を短縮し、放牧期間を延長することに努め、昭和

(1) 雄牛

月令	部位	体重	体高	十字部高	体長	胸囲	胸深	胸巾	尻長	腰角巾	臍巾	坐骨巾	管囲	(頭数)
二十ヶ月		五四	一三〇	一〇〇	一五五	一〇〇	六	四	五二	四六	四	三	一九七	(二頭)
二十四ヶ月		五四	一三三	一三三	一七〇	一〇九	七	四	五三	四六	四	三	一九七	(二頭)

三十七年三月五日から予備放牧を実施し、四月二十一日から十一月十三日まで集約牧野、改良牧野の二群に分け、輪換による全放牧を行ってきた。

現在は草地の草生と維持管理のため、日中放牧、夜間舎飼の所謂半放牧を実施中で、濃厚飼料の節減と省力管理に努めている。

放牧地の庇陰、飲水場、誘導牧棚等の放牧施設が不完全で、条件は悪かったが、竹の切かぶによる踏創、及びピロ陰性牛で放牧開始後初めて陽性に転化し発病した数頭を除き、概ね健康であり、別表のように発育状況は順調である。全放牧中は濃厚飼料は給与せず、鉉塩を不断給与している外、乾牧草を適宜与えている。

繋養牛の発育成績(昭和三十七年十一月末)

(2) 雌牛

月令	部位											
三三ヶ月	三八四	二五	三七	一四二	一七二	六	四〇	四七	四四	二九	一六、四	(一頭)
三九ヶ月	四四五	二三	三六	一四二	一八二	六	四〇	四六	四六	二九	一七、五	(一頭)
二六ヶ月	四四三	二五	三三	一四七	一八〇	六	四〇	四七	四七	二九	一七、九	(一頭)
二七ヶ月	四四三	二五	三九	一四七	一七七	六	四〇	四八	四七	三	一七、六	(一頭)
二五ヶ月	三五〇	一九	三三	一三九	一六八	六	四〇	四八	四四	二六	一六、七	(一頭)
二三ヶ月	三九九	二五	三〇	一四〇	一七六	六	四〇	四八	四六	二六	一七、〇	(一頭)
二二ヶ月	三六二	二三	二六	一三九	一六九	六	三九	四六	四四	三〇	一七、二	(四頭)
二ヶ月	三四二	二三	二六	一三六	一六五	六	三九	四六	四四	二九	一六、八	(七頭)
九ヶ月	三四五	二三	二六	一三六	一六五	六	三九	四七	四三	二九	一七、〇	(八頭)
六ヶ月	三三〇	二〇	二五	一三四	一六一	五	三七	四六	四三	二七	一六、八	(九頭)
七ヶ月	三〇〇	一九	二三	一三三	一五六	五	三六	四四	四二	二五	一六、二	(九頭)
六ヶ月	二七九	二七	二三	一三六	一五五	五	三五	四四	四〇	二六	一五、九	(五頭)

放牧牛の群別体重比較

区分	測定月日	一頭当り 平均 kg	一頭当り 増量	一頭当り平均体重		一頭当り増体重		備考
				A群	B群	A群	B群	
三、三二	三、三二	二六、六	七、九	二六、三	二六、四	七、八	〇、八	全放牧実施前日 B群は改良牧野に B群は集約牧野に放牧
〇、〇一	〇、〇一	二八、九	一、三	二七、〇	二六、七	一、〇	一、四	
七、〇四	七、〇四	二六、一	三、八	二六、九	二五、三	一、〇	一、五	
五、一八	五、一八	二〇、〇	四、四	二〇、六	二〇、四	三、七	三、五	
六、二六	六、二六	二〇、五	六	二〇、四	二〇、六	四、八	二、七	
七、二六	七、二六	二〇、三	六、五	二〇、〇	二〇、〇	一、六	一、四	
八、二二	八、二二	二〇、七	六、四	二〇、三	二〇、七	六、五	二、七	
九、二六	九、二六	二〇、六	一、一	二〇、四	二〇、五	六、九	一、四	
一〇、二六	一〇、二六	二〇、四	一、三	二〇、五	二〇、六	一、五	一、二	
一一、二二	一一、二二	二〇、九	二、七	二〇、五	二〇、三	四、一	一、一	

以上のように、春と秋に体重の増加が認められたが、全放牧実施直後にかんがりの低下がみられた。これは予備放牧から全放牧への移行が順調に行なわれなかつたことが最大の原因であると思われる、今後技術的に検討を要する。飼料の給与については、一応放牧期と舎飼期に別け、別表のよ

うに給与しているが、濃厚飼料を節減した飼養方式を漸次樹立すべく、現在グラスサイレージ又は牧乾草のみを給与し、濃厚飼料無給与の調査を実施し、試験牛について、栄養、発育状態を調べている。

飼料給与例（一日一頭当りの給与量）

舎飼期（十二月—三月）

単位瓦

区分	麩	裸麦	大豆粕	玉蜀黍	乾牧草	生牧草	塩	ユカウルムシ	養分換算	
									T・D・N	D・C・P
種雄牛	1,000	1,000	350	1,000	400	1,000	70	70	7,481	876
種雌牛	800	1,000	250	750	600	1,000	50	70	5,970	673
育成雄牛	750	750	250	750	600	1,000	50	50	5,948	661
育成雌牛	600	600	200	600	600	1,000	40	40	5,566	620
子牛 (離乳後)	600	450	150	300	400		15	15	2,855	339

放牧期（四月—十一月）

区分	麩	裸麦	大豆粕	玉蜀黍	乾牧草	生牧草	塩	ユカウルムシ	養分換算	
									T・D・N	D・C・P
種雄牛	1,000	1,000	350	1,000	400	1,000	70	70	8,331	1,158
種雌牛 (妊娠)	800	1,000	250	300	400	1,000	50	70	6,406	768
育成雄牛				300	400	1,000	50	50	6,100	690
育成雌牛				200	400	1,000	40	40	5,606	643
子牛 (離乳牛)					400		15	15	3,081	367

(2)繁殖

審査標準に基礎を置いて改良繁殖を進めて行くことは勿論であるが、重点を一層肉利用能力におき、しかもでき得るだけ安価に肉牛として仕上るような、即ち濃厚飼料を必要最少限にし、放牧を主体とした草類を多給しても容易に肥る系統の造成を行い、肉用化の促進を図る。当場設立の主旨からも、所謂種畜の生産よりも、体型、資質、品位等に若干の難点があつても、体積があり発育の早い系統牛を作出する必要がある、次の目標をかかげている。

(1)早熟早肥で飼料利用の効率がよく、巾と深みに富み肉量、肉質ともすぐれているもの。

(2)性質温順、体質、四肢強健で環境への適応性が強く繁殖成績のよいもの。

(3)完熟時の標準は次の如きもの。

雄 体高一四〇cm 体重八〇〇kg
雌 体高一二七cm 体重五〇〇kg

(3)衛生

家畜導入後本年九月までの病類別発病頭数は次表のとおりであつた。

病類別	頭数	摘 要
伝染病	三	ピロプラズマ病
呼吸器病	二	気管枝炎
消化器病	四	腸カタル、急性鼓脹症
眼病	六	角膜炎、結膜炎
蹄病	四五	踏創、腐蹄
外傷及不慮	五	刺創
計	六五	

当場の所在する阿蘇地方は古くから広大な原野を利用した放牧が盛んであるが、原野に棲息するダニによつて媒介されるピロプラズマ症による被害は年々増加し、この地方の放牧形態を成功させるか否かは一つにこれら疾病の防遏に成功するか否かであると云つても過言ではない。この防遏・予防・治療等に関して家畜衛生試験場九州支場の指導のもと、試験・調査を実施中でいづれ発表する機会があると考えている。

以上当場の建設経過及び実施した業務の一端について紹介した次第であるが、何分にも日浅く緒についたばかりであり、今後解決せねばならぬ問題が多い。各方面から寄せ

られている御期待に応えるべく一同努力を傾注してゆく所
存であり、今後とも変らぬ御支援を賜るよう切にお願いす
る。

(注) 草地改良関係については、いづれ数字をまとめ、
改めて発表する予定である。



栃木県の褐毛和牛

野 口 利 治

(栃木県支部)

栃木県の和牛は、子牛の生産、肉用並びに役用として飼われているが、近年役畜としての牛は漸次機械力に転換し肉畜としての肥育およびこの素牛用としての子牛の生産が盛んになりつつある。

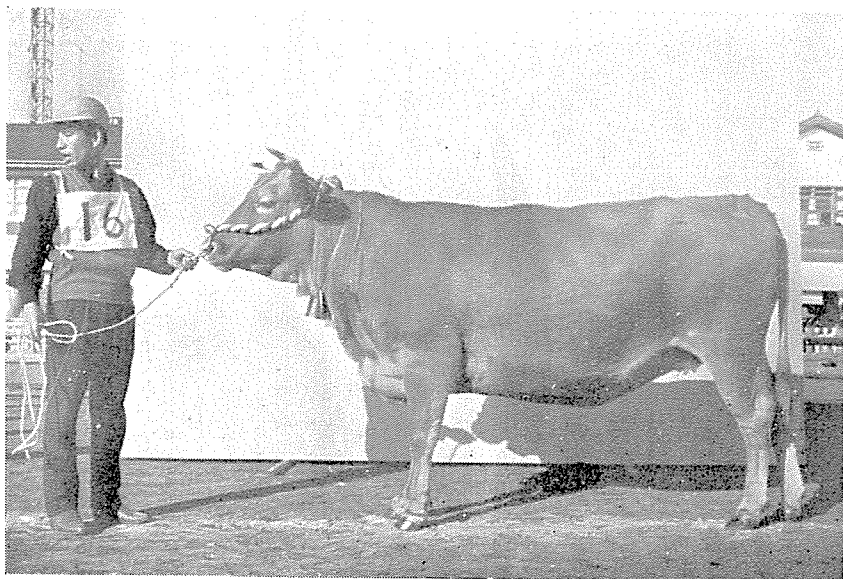
飼養頭数は、本年当初約五万頭を擁し対前年比は一〇・八・九パーセント、飼養農家普及率は三三・九パーセントで全国的に減少の傾向にあるにも拘わらず本県は年々増加の傾向にある。

地域別には県の中部以南の平坦地に於いて飼養密度が高く、とくに終戦後急速に「あか牛」が盛んに飼われるようになり、この地帯が所謂「あか牛」の飼われているところである、県中部以北は昨年県が和牛振興方策を打ち出して和牛生産地設定をなし、この地帯は黒毛和種で急速な進展を見せている。この地帯は昔は馬産地として全国に知られたところであるが和牛への転換が近年急速な進展を遂げて

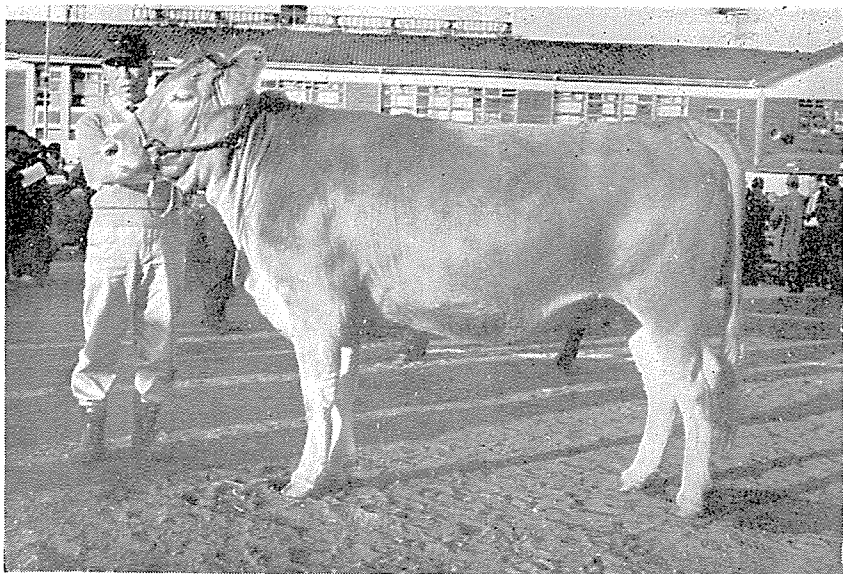
各地で市場の開設をみるようになった。肉牛の生産は、昭和三十年度に二、五〇〇頭に過ぎなかつたものが昭和三十六年度には八千頭に増加しその六十五パーセントが県外に出されている状況であり、本年度の子牛生産頭数は約八千頭で、その内「あか牛」は約三千頭である。和牛の飼養頭数の計画目標は昭和三十九年度には約六万頭にし、年間子牛生産目標頭数を一万頭におき着々とその準備を進めている。

褐牛については前に述べたように計画通りに進展するであらうと思われるが、今後肉用素牛として飼育されることから考えてみても、あか牛だけではなしに、黒牛の増加も当然予想される。ところで本年十一月十八日より二十日までの三日間本県の綜合畜産共進会が開催されたが、その際の種牛、肉牛（屠殺解体）ともに優勝したのは「あか牛」であり、とくに種牛においては県内産に限定したにも拘わらずその成績が黒よりも褐の方が良かったことは注目に値すると思う。

褐毛和牛の登録事業については、年々産地より数百頭の有資格牛を導入しているにも拘わらず、足ぶみ状態を続けていることが、これは県の中南部に子牛の販売態勢が確立されておらないためであり、この対策を検討の上、生産の向上と流通面における諸問題を解決して行くようにして、



栃木県畜産共進会 優等賞
しらうめ号 昭32.2.15生

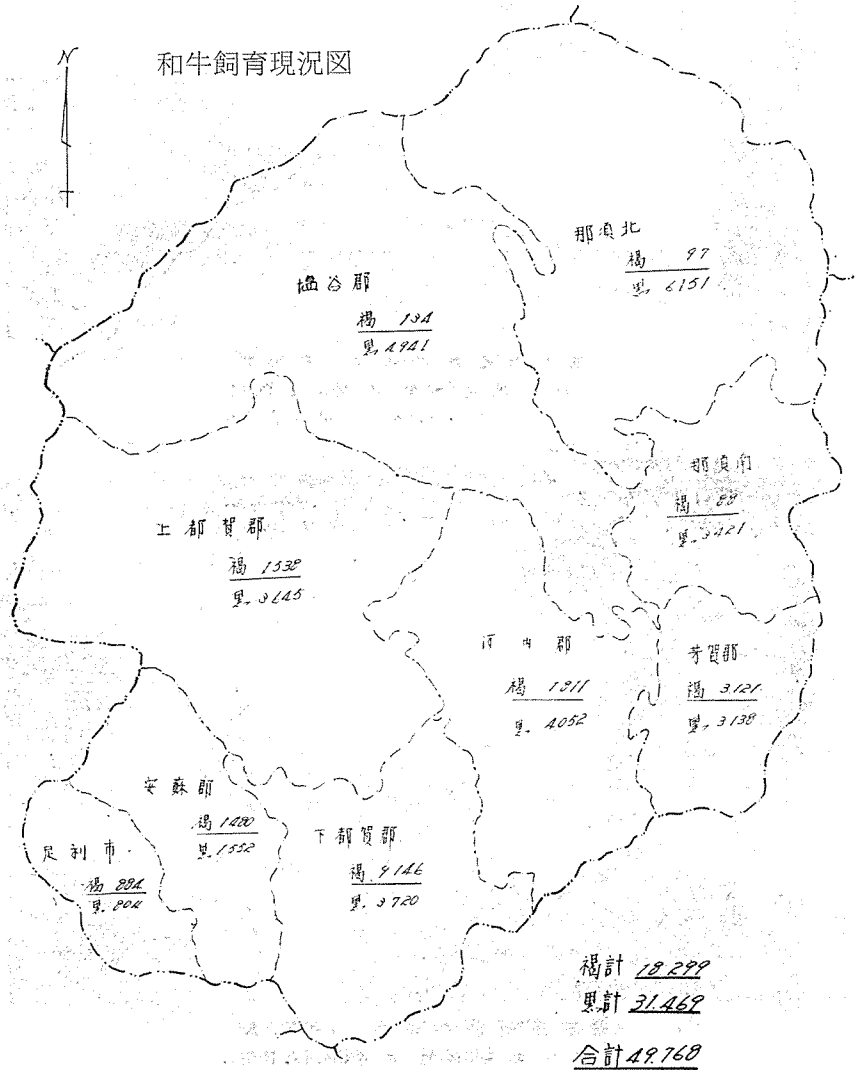


栃木県畜産共進会 1等賞2席
ふくはる号 昭34.12.15生

登録事業も発展させて行くように対策を講じたいと考
える。

又肉畜の共販態
勢の整備確立と相
俟つて、肉畜取引
施設の整備が急務
であるので、本年
度において枝肉セ
ンターを建設する
ことになり、その
準備が着々と進め
られている。
県下の地区別
「あか」「くろ」
飼育状況は、次表
の通りである。

和牛飼育現況図



『あか牛』に寄せて

小 沢 西 次

(群馬県支部)

和牛の生産は、その時代の要請に即応するものであつてしかも農家が大手をひろげて欲待するような、経済性の裏付けがあるものでなければならぬことは当然である。

このような観点から、和牛の現におかれている地位を考えてみると、畜力源としての意義が急減して、肉資源としての意義がクローズアップされてきていることは周知のとおりである。

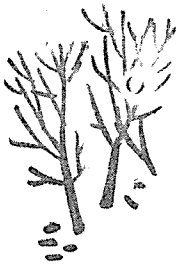
そこで、これからの和牛の生産、改良は、産肉性能の高いもの、とくに早熟早肥のものへと選抜をすすめていく必要があると思う。このことは、あか牛、黒牛を問わず共通した問題であり、またそう改良をしていくことが農家経済にプラスすることになり、和牛が伸びていくことに帰結する。

わが群馬県ではあか牛の早熟性が、従来必らずしも十分に發揮されていたとはいえなかつた。これは品種に対する

認識の不足もあつたであらうし、飼養管理の方法にも問題があつたものと思われる。

たまたま去る十二月十四日に県の和牛総合共進会が開催されて、各郡市より選抜された種牛四〇頭、肉牛四〇頭がその優劣を競い合つたが、その結果は、黒牛の多い本県であか牛が見事に一等に入賞して観衆の注目を浴びた。

これを契機として、本県のあか牛も次第に伸びていくであらうと思われるが、要は誠心誠意でこれに当ることが大切であると思う。



会報

○ 褐毛和牛特別研究会開催

創立一〇周年記念行事の一環として、五月の記念式典にひきつづき、第二次記念行事としての褐毛和牛特別研究会を七月二十九、三十、三十一日の三日間にわたり開催した。

第一日は、農林省九州農業試験場畜産部を会場とし、九大教授岡本博士並びに九州農試富永畜産部長を座長として「褐毛和牛の産肉性能」及び「産肉能力検定」についてのシンポジウムを行ない、多数のスライドや調査資料を中心に、褐毛和牛の産肉能力を向上させるための諸問題について検討、第二日目は、熊本県内の主要産牛地を巡回して実地研究を行なった。

最終日の第三日目は、会場を熊本県阿蘇郡高森町に移して、審査標準改訂案の实地適合を中心とした審査研究会を行ない、改訂案についての最終的検討と改訂実施の時期を十月一日とすることをきめたが、この三日間の行事には、盛夏の時期にもかかわらず、農林省の試験場、種畜牧場関係者をはじめ、秋田、宮城、茨城、山梨、福岡、長崎、熊本の本各県より合計一〇三名の参集があり、記念行事にふさ

わしい意義ある研究会を終了することができた。

○ 高等登録審査成績

登録規程の改正による高等登録制度の発足に伴い、有資格牛について第一回（昭和三十七年一月）、第二回（昭和三十七年八月）の審査が行なわれたが、この審査に合格しこのほど証明書並びに額章を交付されたものは次の通りである。

熊 本 県 支 部	県支部別		計
	畜産農協名	合格頭数	
鹿本畜産農協	雄	雌	計
菊池	二	四	六
阿蘇中部	〃	三	三
南阿蘇	〃	八	九
球磨	〃	〃	一
熊本県畜産試験場	一	〃	一
計	五	二二	二六

○ 静岡県支部発足

静岡県では、かねてより県当局を中心に県畜連、小笠褐

毛和牛生産振興協議会などの関係各団体の間で、褐毛和牛の改良並びに登録の問題について協議中であつたが、このほどその意見が一致し、本会静岡県支部を發足させることになり、八月十三日十四時より掛川市役所に約一〇〇名の関係者が参集して、その發会式を開催した。

県支部事務所所在地並びに支部長以下の役員はつぎの通りである。

- 事務所 静岡市御幸町 静岡県畜連内
 支部長 勝 又直 司
 副支部長 杉山 安男 ほか一名

○ 審査標準及び審査内規を改訂

昭和三十七年十月一日を期し施行

審査標準及び審査内規を左記の通り改訂し、昭和三十七年十月一日を期して全国いつせいに施行した。

褐毛和牛審査標準

改良目標

一般的性能：性質温順、体質強健で、環境への適応性が強く、

繁殖成績がよいこと

産肉能力：早熟早肥で、飼料利用の効率がよく、肉量肉質ともにすぐれていること。

役能力：力、歩み、および耐性において、実用に十分な能力を保持すること。

標準体型 ※ 体格(大きさ)

雄	雌	区分	
		体高	体重
一〇〇	三三〇cm	標準	標準
一〇〇	三三〇cm	範	範
一〇〇	三三〇cm	圍	圍
一〇〇	三三〇cm	圍	圍
八〇〇	四八〇kg	標準	標準
八〇〇	四八〇kg	範	範
八〇〇	四八〇kg	圍	圍
八〇〇	四八〇kg	圍	圍

各部の比率(つり合い)

雄	雌	区分
一〇〇	一〇〇	体高十字
六二	二六	体長
二二	一五	胸圍
二二	一五	胸深
三九	三六	胸幅
四二	四〇	尻長
三六	三九	腰角幅
三三	三三	寬幅
二五	二五	坐骨幅
一五	一三	管圍

※ 成熟した繁殖牛の標準で、若齡の牛には別に定める正常發育曲線の數値を適用する。

付 点 審 査 の 規 準

区 分	説 明	配点
一般的外観		40
発育・状態	月齢相応の発育をしめし、体高と体重とが別に定める発育曲線によく適合すること(6)。	10
体積・均称	栄養良好で被毛に光沢があり、繁殖牛として適度の肉付をしめし、過肥でないこと(4)。	20
資質・品位	体幅、体深ともに十分で、体上線と体下線とがほぼ平行し、体幹が豊円で、頭、頸、肢などのつり合いもよく、各部の比率がなるべく標準に合致すること。	10
体 色	温和なうちにも活気があり、雌雄それぞれに特有の性相と品位を現わし、被毛は細くて柔軟、皮膚は薄く柔らかで、ゆとりと弾力のあるもの。角と蹄とはなめらかで質のち密なもの。被毛は黄褐色から赤褐色までの単色を原則とするが、下腹部下肢、後肢内面などはある程度淡くてもよい。皮膚は淡紅色角と蹄とは被毛に似た褐色を標準とする。	※
頭 ・ 頸		6
頭 ・ 顔	頭は大きくなく、輪郭がはつきりして、雌雄とも性相がよく現われ、額は平らで広く、上部はいく分しまり、鼻すじが通り、鼻鏡は広く、口が大きく、顎の丈夫なもの。目は大きくて生気があり、しかも柔和さを失わないもの。角は丸く、長さ太さともに中くらいで、向きのよいもの。項はくぼみのあまり深くないもの。	4
頸	頸は長からずつまずらず、頭と肩とのいずれにもなだらかに移行し、雌ではすつきりして、雄ではたくましく、いずれも垂皮の重くないもの。	2
前 区		6
肩	肩幅は胸幅とつり合い、き甲はとがらないで丸みがあり、肩甲は程よく傾斜して形よく付着し、肩端の突出しないもの。	4
前 胸	前胸はよく充実し、広くて平らなもの。	2
中 区		20
胸・肋・腹	胸郭は広さと深さとがよくつり合い、肩後肘後ともに充実し、豊円の感があるもの(4)。肋はよく開張し、肉付き良好で触感のなだらかなもの(4)。腹は豊かてくぼみが少なく、下部までよく充実しているもの(2)。	10
背 ・ 腰	上線はまつすぐで強く、上面は平らで幅広く、肉付き良好で後区への移行のよいもの。	10
後 区		16
十字部・腰角・尻・寛尾	十字部は平らで、腰角は突出せず、尻は広く長く、よく充実し、上線がまつすぐで、後方にも側方にもあまり傾斜せず、寛は幅が広く、その位置がよく、尾付きのよいもの。	8
殿 ・ 腿	殿はよく充実して坐骨端が突き出ず、腿は前後、内外、上下いずれの方向にも豊かな肉付きをしめすもの。	8
乳房・性器	乳房は4区均等に発達し、柔らかで弾力があり、乳頭は大きく配置のよいもの。睪丸は左右とも正常に発達し、陰嚢にはいく分ゆとりがあり、包皮のゆるくないもの。	4
肢蹄・歩様	肢は長くなく、関節は強く、管はしまり、つなぎもしまつて丈夫なもの。肢勢は正しく、左右の間が程よく離れ、飛節の角度は適当で、安定感があり、蹄は大きさ適度で厚く、形のよいもの。 肢の運びはまつすぐで軽く、踏着きがよくて、腰や飛節のゆれないもの。	8

※ とくに配点せず、別に定める内規により、0～2点の範囲で総得点を補正する。
失格条項 1 異毛色・顕著な白斑 2 性器の異常 取扱いはいずれも別に定める。

褐毛和牛審査内規

(1) 付点法

付点は、左記に示す階層区分により、得点率で記載し、総得点は小数点以下1位まで示すこと。

階層区分	得点率	参考
特優	六五%	(旧減率) 一七%以内
優上	六〇%	一八・一九%
中	五五%	二〇・二二
中下	五〇%	二三・二三
良上	四五%	二四・二五
中	四〇%	二六・二七
中下	三五%	二六・二九・三〇
可上	三〇%	三三・三三・三四
可下	二五%	三四%以上
不可	一〇%	失格同等取扱

(2) 失格条項の「性器の異常」の解釈

審査標準に示す失格条項のうち、「性器の異常」とは、次のも

のをいう。

1. 雄にあつては片睪丸のもの
2. 雌にあつては外観上明らかに異常が認められるもの

(3) 失格同等の取り扱いをなすもの

1. 先天性奇形（豚尻を含む）
2. 黒蹄・黒角・鼻鏡黒（全黒のもの）
3. 一部位の得点率が50%以下のもの（

(4) 高等登録の失格条項中「遺伝的異常形質」とは、次のものをいう

1. 先天性鱗皮症
2. 先天性脳水腫
3. 先天性盲目
4. 先天性鼻梁彎曲
5. 無尾

(5) 本登録の審査対象から除外するもの

1. 雌にあつては、体高が、その発育曲線の範囲内でないもの
2. 雄にあつては、体高が、その発育曲線の中線までに達しないもの
3. 雌雄ともに、体高が、その発育曲線の上線を超えるものであつても、登録審査の際に雌では一三〇センチ以内、雄では一四三センチ以内であつて、とくに均称の良いものはこの限りではない

(6) 付点内規

1. 体色の異常 (総得点から次の通り減点する)

イ 毛色の濃淡、明暗

イ すばれ毛

(各項目につき、それぞれ左記の通り減点)

(口囲、耳、尾房)

程度の軽いもの

〇、二点以内減

ハ 刺毛

中程度のもの

〇、四点減

ニ あぶ

程度の重いもの

〇、八点減

ホ 蹄の色の異常

ヘ 角の色の異常

ト 鼻鏡の色の異常

チ 胸下、腹下の白斑で、母指頭大又は線状のもの (1箇所まで)

で) 〇、二点減

◎体色の異常が、失格には至らないが、特に著しいものについては、一項目につき、2点まで減点することができ

2. 季肋骨の異常

肋腹の部位の得点率から、次の率を減ずる。

1. はねかぶ

二〇%

2. かぶ

一〇%

3. 沈み又は切骨

五%

3. 歩 様

1. 特に良いもの

八五%以上

2. 良いもの

八〇%

3. 普通のもの

七五%

4. 良くないもの

七〇%

4. 乳 器

1. 特に良いもの

八五%以上

2. 良いもの

八〇%

3. 普通のもの

七五%

4. 良くないもの

七〇%

○ 東日本ブロック審査研究会

本年度の東日本ブロック審査研究会は、宮城県の当番により、十月三十、三十一日の両日仙台市で開催した。

当日は、秋田、宮城、福島、茨城、群馬、埼玉、新潟、長野の各県より多数の関係者が出席して、岡本中央審査委員長の指導のもとに、改訂審査標準及び審査内規の適合による審査の研究が行なわれ、審査眼の統一を図った。

なお、つぎの事項について協議し、昭和三十八年度の東日本ブロック審査研究会を、新潟県の当番により、八月下旬に、同県下で開催することを申し合わせて散会した。

○産肉能力検定具体化の問題について

○ 遺伝的異常形質の発生状況とその淘汰について
○ 登録事務の刷新について

○ 「雌牛の正常発育曲線」刊行

かねての懸案であつた雌牛の発育曲線修正の問題は、このほど九州大学畜産学第一教室の手でその原図が完成したので、本会で刊行、一般に対しては実費二〇〇円で頒布することにした。希望者は「振替熊本一五一〇」の本会口座を利用し代金前納で申し込まれたい。



各県の和牛関係主要行事

○ 福島県

期 日	行 事 内 容	場 所
一月中旬	昭和三十八年度子牛市場開設協議会	福島市
二月中旬	改良増殖計画設定協議会	右 全
四月中旬	畜産団体長会議	右 全
四月下旬	県畜運及び和牛登録協会支部定期会議	右 全
五月下旬	第一回種雄牛購買	県内及び 県外
六月中旬 七月~	定期種畜検査	県内一円
八月上旬	和牛技術者養成研修会	福島市
十月上旬	第二回種雄牛購買	県内及び 県外
十月中旬	県畜産共進会	未 定

○ 埼玉県

期 日	行 事 内 容	場 所
三月三十五日	県畜産共進会	行田市 市営グラウンド

○ 長崎県

期 日	行 事 内 容	場 所
四月	県支部総会（評議員会）	島原市

○ 熊本県

期 日	行 事 内 容	場 所
一月	新標準普及の審査研究会	玉名市
二月	優良系統牛の繁殖成績調査	菊池市
二月	あか牛枝肉研究会	福岡市
四月	県支部定期総会	熊本市
七月	農業高枝家畜審査競技会	未 定
八月	高等登録審査	県下一円
十月	県畜産共進会	未 定
十月	九州連合畜産共進会	長崎県

○長野県

期 日	行 事 内 容	場 所
一月	和牛肥育管理講習会 和牛肥育体験発表会	
二月	和牛肥育生産組合育成月間 家畜改良研究会	
三月	登録事務研修会	
四月	登録実務研修会	
五月	登録推進打合せ 支部総会	
〃	生産団地造成推進会議	
〃	審査講習・研究会	
六月	家畜市場取引改善打合せ	
七月	種雄畜更新打合せ	
八月	夏期大学の開催	
九月	人工授精推進会	
〃十月	肉牛共進会 県総合畜産共進会	
十一月	集団登録審査	
十二月	優良家畜造成会議	

○秋田県

期 日	行 事 内 容	場 所
二月～三月	登録及び飼育管理講習会	県下一円
四月二十日	種 畜 検 査	右 全
五月二十二日	褐毛和牛審査研究会	右 全
五月下旬		
七月一日	登録及び子牛品評会	右 全
八月一日		
九月七日	県畜産共進会	湯 沢 市
九月九日		
九月中旬	枝肉規格講習会	秋 田 市
十月中、下旬	登録及び品評会	県下一円
十二月	登録及び飼育管理講習会	右 全

ニュース

○ 農林省熊本種畜牧場阿蘇支場開場

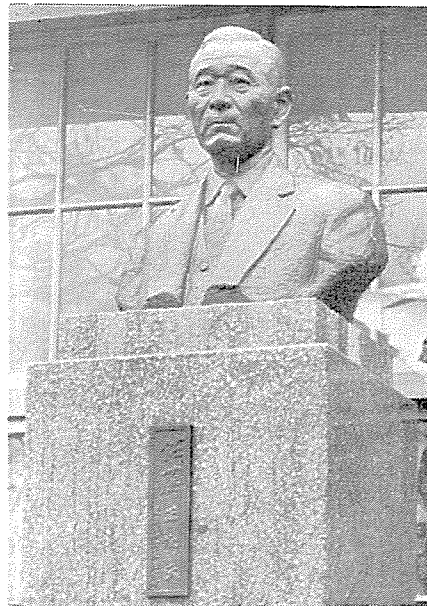
昭和三十五年八月以来二カ年の計画で建設を急いでいた農林省熊本種畜牧場阿蘇支場は、このほどすべての施設が完成したので、十月十日をばくして、開場記念式を同場で挙行了た。

当日は、農林大臣代理の丹羽畜産局参事官をはじめ大川農林技官、畜産振興事業団の田口教一副理事長、占野靖年博士ら中央関係者並びに三百余名の地元関係者が参集して同場の開場とその前途を祝福した。

○ 故佐藤正次氏の胸像除幕

一昨年十二月に急逝した本会前常務理事事故佐藤正次氏の業績を追頌するため、地元の熊本県球磨郡市の関係者が一丸となつて、胸像建設の事業が進められていたが、その一周忌をばくして、去る十二月十四日午前十一時より、球磨畜産農協組合広場で盛大にその除幕式が挙行された。当日は雨中にもかかわらず岡本九大教授、高野熊本県畜産課長を始め五〇〇名余の多数の関係者が参集して故人の偉徳を

たたえたが、胸像は日展無鑑査の田島龜彦氏の力作によるものであり、題字は本会会長の佐々木博士揮毫による見事なものである。



○ 肉用牛の改良増殖目標公表さる

農林省では、昭和三十七年十二月二十八日付で、肉用牛の改良増殖目標をつぎの通り公表した。

家畜改良増殖目標

今後において予測される畜産物の需要の増大に対処してその生産の確保を図るとともに農業構造の改善を積極的に

推進して行くうえにおいて畜産にかけられている期待は大
きい。

この期待に於て畜産の振興を図るためには、畜産に關
する施策を総合的に実施して行くことが必要であるが、家
畜の改良増殖にあつてはその性質上長期に亘り計画的に推
進しなければ十分な成果を期待できないことはいうまでも
ない。

家畜改良増殖目標は、かかる見地に立つて、家畜改良増
殖法第3条の2第2項の規定に基づき定めるものであり、
家畜の種類ごとに飼養管理および利用の動向にそつて今後
昭和四十六年における全国総頭数、全国平均の能力および
体型についての向上の目標を定め、家畜の改良増殖の向う
べき方向を示そうとするものである。

この目標が達成されるためには、国および都道府県その
他関係者の努力を必要とするところであり、国においては
種畜牧場の整備、家畜の能力検定事業の推進等家畜改良増
殖に関する諸施策の強化を図るとともに、これに関連する
施策の総合的実施に努めるものとし、都道府県においても
この目標に即しかつ各都道府県の実情にそつて、家畜改良
増殖計画を策定して、家畜改良増殖施設の整備、優良種畜
の配置、利用等を計画的に実施し、さらに関係者の協力を
得るよう努めることを期待するものである。

肉用牛

目標

- (1) 総頭数は二五〇万頭とすること。
- (2) 体各部の均称ならびに資質よく、体積にとみ、と
くに中軀および後軀の充実に重点をおいて改良する
こと。
- (3) 繁殖能力よく、飼料とくに粗飼料の利用性にとみ
産肉能力のすぐれたものにする。
- (4) 体型および能力に関する数値(全国平均)は次の
とおりとする。ただし体型は成熟した種牛の場合と
し、能力は肥育した場合とする。

目標(46年)		現在		区分	性
雄	雌	雄	雌		
137	155	137	155	体高	センチ
101	117	101	117		
115	130	115	130	胸囲	%
70	80	70	80		
400	450	400	450	体重	キログラム
200	250	200	250		
5	6	5	6	肥育開始	カ月
3	4	3	4		
100	100	100	100	肥育期間	日
100	100	100	100		
0.9	1.1	0.8	1.1	一日増量	キログラム
0.9	1.1	0.8	1.1		
0.9	1.1	0.8	1.1	歩留	%
0.9	1.1	0.8	1.1		

(説明)

(1) 近年食肉の需要は逐年増加しており、長期見通しによると昭和四十六年において一一四〇一四五万トンの需要に対して生産は一〇二万トン程度と見込まれ、このままでは一二一四三万トンの不足が生ずるものと見込まれる。食肉の供給については豚、鶏、乳用牛などによる生産もあるが、牛肉としての需要も強く、また国土利用や濃厚飼料需給の関係もあつて、肉用牛に対する期待は大きい。

よつて和牛の改良増殖を主としその資源を生かして、短期肥育、若令肥育を奨励するとともに一部外国産肉専用種の導入による新しい形態の肉牛経営の発展をも考慮し、昭和四十六年において肉用牛による肉の生産を二〇三千トンと見込み、これを達成するに要する肉用牛の頭数目標をおおむね二五〇万頭とする。

(2) 和牛については、農業機械化の進展と食肉需要の増大を考慮すれば、今後は肉利用に重点をおいて改良する必要があるが、農耕用としての利用もなお無視できないので、現状程度の役能力を保持しつつ産肉能力の向上を図るものとする。

よつて体型および資質については、産肉能力の向

上を図るため、資質ならびに体各部の均称よく、体積にとみ、中軀および後軀の充実したものとするとともに、飼料とくに粗飼料の利用性にとみ、成熟率高く、また産子の斉一性、連産性など繁殖能力のよいものを目標とする。

現在、和牛の体格は、種牛の場合、成熟したものに於いて、体高は雌で一二五―一二七センチ、雄で一三七―一四〇センチ、体重は雌で四三〇―五〇〇キロ、雄で七〇〇―八〇〇キロが標準とされているが、体高は雌雄ともその目標は現在のままとし、体重は雌で四五〇―五一〇キロ、雄で七五〇―八二〇キロを目標とすることが適當である。

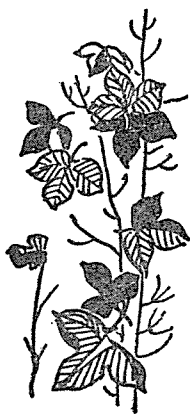
なお、胸囲の体高に対する比率は現在、雌一四五―一四八％、雄一五四―一五八％を標準としているが、これらをそれぞれ一四六―一五〇％および一五五―一六〇％にすることを目標とする。

(3) 産肉能力については、その肉質の特色をいかし、増体量、枝肉歩留、飼料効率などの向上、斉一化につとめる必要がある。

現在の和牛は、雌では三八〇キロ程度(生後三〇―三六カ月)のものを一二〇日程度肥育した場合は五一〇キロ程度に仕上がり(一日平均増体量一、一

キロ程度)、一八〇日程度肥育した場合は五四〇キロ程度に仕上がる(一日平均増体量〇、九キロ程度)のが普通であり、また体重一五〇キロ程度のもの(生後五〜六カ月)を若令肥育した場合は、三五〇日ぐらいで四三〇キロ程度に仕上がる(一日平均増体量〇、八キロ程度)のが普通であるが、これを改良して、一二〇日肥育では五三五キロ程度に仕上がり(一日平均増体量一、三キロ程度)、一八〇日肥育では五八〇キロ程度に仕上がり(一日平均増体量一、一キロ程度)、また若令肥育の場合は三三〇日で四五〇キロ程度に仕上がる(一日平均増体量〇、九キロ程度)よう改良することを目標とする。

なお、肥育後と殺した場合の枝肉歩留りについては、現在五五〜六〇%のものを六〇〜六三%程度に向上させることを目標とする。



謹賀新年

昭和三十八年元旦

同	同	監	同	同	同	同	同	同	理	同	常	同	副	会
		事							事		務		会	長
											理		長	
湯	堀	木	岩	矢	古	野	池	稻	佐	深	高	小	河	佐
浅	村	本	本	野	田	口	田	葉	々	川	野	屋	津	々
正	照	健	人	幸		源	紀	芳	雄	金	守	寅	清	
二	雄	十	志	雄	愿	雄	四	蔵	三	蔵	雄	一	雄	綱
							郎							

刊行物実費頒布案内

○褐毛和牛の正常発育曲線

種雄牛

二〇〇円

めす牛

二〇〇円

○機関誌「あか牛」

創刊号、2、3、7、8号は売り切れ

第4号

第5号

第6号

第9号

第10号

一部 一〇〇円

(送料とも)

代金前納申し込みのこと

熊本市行幸町一九 熊本県庁内

社団法人 日本褐毛和牛登録協会

振替 熊本 一、五一〇

第 10 号

昭和 38 年 1 月 15 日 印刷
昭和 38 年 1 月 30 日 発行

編集兼発行者 桑原重良
発行所 日本褐毛和牛登録協会

熊本市行幸町19 熊本県庁内
振替熊本 1,510

印刷者 白石 豊
印刷所 熊本市島崎町宮内290
白石印刷美術株式会社
TEL ② 6812